

14時30分解禁

平成30年1月 全国百貨店売上高概況

平成30年2月21日

I. 概況

1. 売上高総額	5,157億円余
2. 前年同月比	-1.2% (店舗数調整後/2か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	80社 226店 (平成29年12月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,692,052㎡ (前年同月比:-3.4%)
5. 総従業員数	70,771人 (前年同月比:-4.1%)
6. 3か月移動平均値	6-8月 0.5%、7-9月 1.2%、8-10月 1.2%、 (店舗数調整後) 9-11月 1.4%、10-12月 -0.1%、11-1月 0.1%

[参考] 平成29年1月の売上高増減率は-1.2% (店舗数調整後)

【特徴】

1月は、福袋等で賑わった初商や冬のクリアランス開始に至る前半戦は比較的好調に推移したが、後半に入って大雪や厳しい寒波等の天候与件から、入店客数に大きく影響を受けた結果、最終的には前年同月比1.2%減と2か月連続マイナスとなった。

顧客別では、国内市場(シェア94.5%/2.6%減)が苦戦した一方、インバウンド(シェア5.5%/31.6%増)は春節の月ズレ(昨年1/28→本年2/16)というマイナス要素がありながら、約284億円と過去最高額を更新。リピート客の増加傾向も見られ、特に都市部において活況を呈している。

こうした状況を背景に、地区別では10都市が0.4%増と6か月連続プラス。インバウンド効果の高い大阪・福岡など5地区(仙台、横浜、名古屋、大阪、福岡)で前年をクリアした。地方(10都市以外の地区)では天候不順が大きく影響して4.6%減(9か月連続マイナス)と苦境が続いている。

商品別では、引き続き化粧品(15.8%増)と高額商品(美術・宝飾・貴金属/4.3%増)を中心に、雑貨が合計で6.9%増と前月より増加率を更に1.4ポイント伸ばし14か月連続プラス。身のまわり品もラグジュアリーブランドが好調で0.8%増と再びプラスに転じた。

主力の衣料品は4.0%減と2か月連続マイナス。防寒アイテムが好調だった他、セール品よりプロパー品が健闘するなど価値志向の高まりも見られたが、全体的には苦戦し前年実績をクリアできなかった。家庭用品(7.8%減)は売場リースによる面積減から前年割れが続いており、デイリー商材の食料品(1.9%減)は天候による入店客数減が影響した。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「1月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇東・西日本では強い寒気が流れ込みやすかったため、平均気温は低く、特に、中旬前半と下旬は顕著な低温となった。

また、中旬前半と下旬は冬型の気圧配置が強まり、日本海側では東・西日本中心に大雪となる時期があり、降雪量は東・西日本日本海側で多かった。22日から23日にかけて、関東甲信地方や東北太平洋側では大雪となった。

(2) 営業日数増減 30.0日(前年同月比 -0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日(〃 -1日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数129店舗)

①増加した：28店、②変化なし：38店、③減少した：63店

(5) 1月歳時記(初売り、クリアランス)の売上(同上/有効回答数98店舗)

①増加した：15店、②変化なし：64店、③減少した：19店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2018年01月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	515,714,172	100.0	-1.2 (-1.0)
10都市	359,075,440	69.6	0.4 (1.2)
札幌	14,312,809	2.8	-0.3
仙台	7,124,041	1.4	1.4 (-5.9)
東京	136,848,742	26.5	-0.2
横浜	30,623,756	5.9	0.0
名古屋	33,543,434	6.5	0.1
京都	21,380,520	4.1	-0.3
大阪	72,370,373	14.0	7.4
神戸	13,209,551	2.6	-27.5 (-2.2)
広島	10,925,614	2.1	-0.8
福岡	18,736,600	3.6	2.2
10都市以外の地区	156,638,732	30.4	-4.6 (-5.7)
北海道	1,509,823	0.3	-7.6
東北	7,752,919	1.5	-3.1
関東	71,716,849	13.9	-1.0 (-5.6)
中部	11,608,756	2.3	-5.6
近畿	20,238,080	3.9	-19.0 (-12.0)
中国	11,387,043	2.2	-2.1
四国	8,553,613	1.7	-1.9
九州	23,871,649	4.6	-3.7

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	515,714,172	100.0	-1.2 (-1.0)
紳士服・洋品	41,586,106	8.1	-2.3 (-2.6)
婦人服・洋品	119,357,599	23.1	-4.3 (-4.4)
子供服・洋品	12,553,452	2.4	-6.3 (-5.7)
その他衣料品	11,458,744	2.2	-4.5 (-5.2)
衣 料 品	184,955,901	35.9	-4.0 (-4.1)
身のまわり品	74,946,879	14.5	0.8 (0.7)
化粧品	43,412,576	8.4	15.8 (16.4)
美術・宝飾・貴金属	26,541,199	5.1	4.3 (3.9)
その他雑貨	19,063,955	3.7	-6.5 (-4.0)
雑 貨	89,017,730	17.3	6.9 (7.6)
家 具	4,825,620	0.9	-3.7 (-4.3)
家 電	978,575	0.2	-4.6 (-4.5)
その他家庭用品	14,694,235	2.8	-9.3 (-10.1)
家 庭 用 品	20,498,430	4.0	-7.8 (-8.5)
生 鮮 食 品	22,547,837	4.4	-3.8 (-2.7)
菓 子	34,227,112	6.6	-2.0 (-1.1)
惣 菜	26,948,829	5.2	-2.1 (-1.1)
その他食料品	35,571,154	6.9	-0.5 (-0.6)
食 料 品	119,294,932	23.1	-1.9 (-1.3)
食 堂 喫 茶	12,919,524	2.5	-4.5 (-3.9)
サ ー ビ ス	4,633,412	0.9	-0.2 (-0.3)
そ の 他	9,447,364	1.8	-0.4 (-0.7)
商 品 券	7,618,615	1.5	-8.4 (-9.0)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

NEWS LETTER

Ⅱ. 地区別の動き

1. 10都市売上動向 0.4% (店舗数調整後／6か月連続プラス)
 2. 10都市以外の地区売上動向 -4.6% (店舗数調整後／9か月連続マイナス)

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	0.4	0.3	6か月連続プラス
札幌	-0.3	0.0	13か月ぶりマイナス
仙台	1.4	0.0	2か月ぶりプラス
東京	-0.2	-0.1	3か月ぶりマイナス
横浜	+0.0	0.0	6か月連続プラス
名古屋	0.1	0.0	2か月ぶりプラス
京都	-0.3	0.0	2か月連続マイナス
大阪	7.4	1.0	13か月連続プラス
神戸	-27.5	-0.7	5か月連続マイナス
広島	-0.8	0.0	16か月連続マイナス
福岡	2.2	0.1	6か月連続プラス
10都市以外の地区	-4.6	-1.5	9か月連続マイナス
北海道	-7.6	0.0	16か月連続マイナス*
東北	-3.1	0.0	5か月連続マイナス*
関東	-1.0	-0.1	2か月連続マイナス
中部	-5.6	-0.1	8か月連続マイナス
近畿	-19.0	-0.8	11か月連続マイナス
中国	-2.1	0.0	2か月連続マイナス*
四国	-1.9	0.0	2か月連続マイナス
九州	-3.7	-0.2	2か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が14か月連続、身のまわり品が2か月ぶりのプラスとなった。また家庭用品が25か月連続、食料品が8か月連続、衣料品が2か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が34か月連続、美術・宝飾・貴金属が10か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.2	—	2か月連続マイナス
紳士服・洋品	-2.3	-0.2	3か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-4.3	-1.0	2か月連続マイナス
子供服・洋品	-6.3	-0.2	4か月連続マイナス
その他衣料品	-4.5	-0.1	27か月連続マイナス
衣料品	-4.0	-1.5	2か月連続マイナス
身のまわり品	0.8	0.1	2か月ぶりプラス
化粧品	15.8	1.1	34か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	4.3	0.2	10か月連続プラス*
その他雑貨	-6.5	-0.2	9か月連続マイナス*
雑貨	6.9	1.1	14か月連続プラス
家具	-3.7	0.0	4か月連続マイナス
家電	-4.6	0.0	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-9.3	-0.3	22か月連続マイナス
家庭用品	-7.8	-0.3	25か月連続マイナス
生鮮食品	-3.8	-0.2	46か月連続マイナス*
菓子	-2.0	-0.1	2か月連続マイナス*
惣菜	-2.1	-0.1	4か月連続マイナス*
その他食料品	-0.5	0.0	5か月連続マイナス*
食料品	-1.9	-0.4	8か月連続マイナス
食堂喫茶	-4.5	-0.1	9か月連続マイナス
サービス	-0.2	0.0	2か月連続マイナス
その他	-0.4	0.0	9か月ぶりマイナス
商品券	-8.4	-0.1	83か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

NEWS LETTER

平成30年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成30年2月21日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,368億円余
2. 前年同月比	-0.2% (3か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭0.2%(92.6%) : 非店頭-4.9%(7.4%) () 内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	844,760㎡ (前年同月比:-3.3%)
6. 総従業員数	17,957人 (前年同月比:-3.7%)
7. 3か月移動平均値	6-8月 1.0%、7-9月 2.1%、8-10月 2.5%、 9-11月 2.7%、10-12月 1.5%、11-1月 1.5%

[参考] 平成29年1月の売上高増減率は-1.5%

【特 徴】

- (1) 東京地区入店客数は、全店平均では0.4%増となったが、改装効果や大型催事のあった一部店舗を除く過半の店では、1月後半の大雪と寒波が大きく影響して前年実績を下回った。好天に恵まれた月前半に限れば入店状況は概ね順調に推移していた。
- (2) 今年の初商は、恒例の福袋やクリアランスの動きが良かったものの、主力のコート等冬物重衣料に対する需要の強さに供給が追い付かず、シェアの大きいセール商材に品薄感が出て、売上高総額では0.2%減と前年に僅かに届かなかった。
- (3) インバウンドや高額消費の活況を背景に、引き続き雑貨は7.4%増(14か月連続プラス)と大きく伸ばした。内訳を見ると国内外ともに需要拡大が続く化粧品が二桁増(11.6%増)となった他、高級時計を含む美術・宝飾・貴金属もプラス(5.8%増)した。
- (4) 身のまわり品は、輸入特選雑貨(=ラグジュアリーブランド)が好調に推移して0.4%増と2か月ぶりにプラスに転じた。衣料品(3.3%減)は天候与件からコート、マフラー、手袋など一部防寒商材に動きが見られたものの、品薄感もあって2か月連続マイナスとなった。
- (5) 下旬のバレンタイン商戦は、食イベントとして拡大しており、関連の店外催事も好調。その他物産展や食品催事の人气も高く、その他食料品は5.5%増と3か月ぶりに対前年増。その結果、食料品は0.6%増と7か月ぶりにプラス転換した。
- (6) 2月中間段階の商況は、1.0%減(2/15)で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 29.8日 (前年同月比 -0.1日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 4店、②変化なし: 5店、③減少した: 10店
- (3) 1月歳時記(初売り、クリアランス)の売上 (同上/有効回答数13店舗)
①増加した: 5店、②変化なし: 7店、③減少した: 1店

NEWS LETTER

東京地区百貨店 売上高速報 2018年01月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	136,848,742	100.0	-0.2
紳士服・洋品	13,183,737	9.6	-1.9
婦人服・洋品	28,652,756	20.9	-4.1
子供服・洋品	2,522,737	1.8	-4.5
その他衣料品	2,575,324	1.9	0.0
衣 料 品	46,934,554	34.3	-3.3
身のまわり品	20,773,710	15.2	0.4
化粧品	12,939,577	9.5	11.6
美術・宝飾・貴金属	8,164,919	6.0	5.8
その他雑貨	5,889,000	4.3	1.2
雑 貨	26,993,496	19.7	7.4
家 具	1,362,529	1.0	-8.8
家 電	714,073	0.5	19.2
その他家庭用品	3,619,029	2.6	-14.3
家 庭 用 品	5,695,631	4.2	-9.8
生 鮮 食 品	4,118,444	3.0	-2.5
菓 子	7,998,721	5.8	-1.7
惣 菜	6,342,967	4.6	-1.5
その他食料品	9,817,587	7.2	5.5
食 料 品	28,277,719	20.7	0.6
食 堂 喫 茶	2,909,153	2.1	-7.0
サ ー ビ ス	1,841,240	1.3	-0.1
そ の 他	3,423,239	2.5	-0.5

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,704,078 千円	-7.6
従 業 員 数	17,957 人	-3.7
店 舗 面 積	844,760 m ²	-3.3

営 業 日 数	29.8 日	前年	29.9 日
---------	--------	----	--------

NEWS LETTER

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が14か月連続、身のまわり品が2か月ぶり、食料品が7か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が17か月連続、衣料品が2か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が34か月連続、美術・宝飾・貴金属が9か月連続、家電が5か月連続、その他雑貨が2か月連続、その他食料品が3か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.2	—	3か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-1.9	-0.2	6か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-4.1	-0.9	2か月連続マイナス
子供服・洋品	-4.5	-0.1	3か月連続マイナス
その他衣料品	-0.0	0.0	4か月連続マイナス
衣料品	-3.3	-1.2	2か月連続マイナス
身のまわり品	0.4	0.1	2か月ぶりプラス
化粧品	11.6	1.0	34か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	5.8	0.3	9か月連続プラス*
その他雑貨	1.2	0.0	2か月連続プラス*
雑貨	7.4	1.4	14か月連続プラス
家具	-8.8	-0.1	2か月連続マイナス
家電	19.2	0.1	5か月連続プラス
その他家庭用品	-14.3	-0.4	10か月連続マイナス
家庭用品	-9.8	-0.5	17か月連続マイナス
生鮮食品	-2.5	-0.1	23か月連続マイナス*
菓子	-1.7	-0.1	3か月ぶりマイナス*
惣菜	-1.5	-0.1	3か月ぶりマイナス*
その他食料品	5.5	0.4	3か月ぶりプラス*
食料品	0.6	0.1	7か月ぶりプラス
食堂喫茶	-7.0	-0.2	5か月連続マイナス
サービス	-0.1	0.0	2か月連続マイナス
その他	-0.5	0.0	6か月ぶりマイナス
商品券	-7.6	-0.1	4か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>